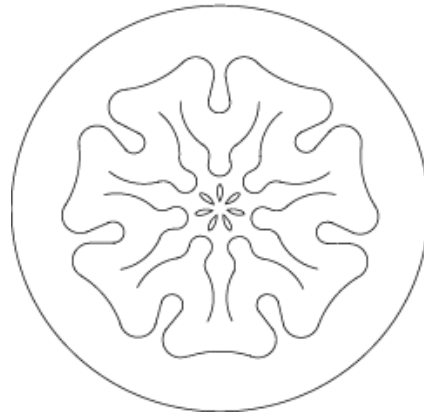


Biographywork Japan

バイオグラフィーワーカー養成コース

案内書



自分を知りたければ、周囲の世界へ目を向けよ。
世界を知りたければ、自分の内奥をみつめることだ。

ルドルフ・シュタイナー

一般社団法人バイオグラフィーワーク・ジャパン

(社)バイオグラフィーワーク・ジャパン 教育プログラム

バイオグラフィーワーカー養成コース

バイオグラフィーワークは、私たちひとりひとりの人生の軌跡～バイオグラフィーに人間の存在の意義を学ぶ、自己教育のプロセスです。

はかりがたい未来へ向かってすべてが大きく動いている私たちの時代と社会。そこでは、自分を保ち続ける確かな自我の力が求められます。より人間性にみちた社会の実現を可能にするのも、自己教育によって得られる、この自我の力です。バイオグラフィーワークでは、自分自身と周囲の人々や世界を理解するための知識や方法を、グループとともに学ぶことで、自我の健全な成長を目指しています。

自他のバイオグラフィーに秘められているメッセージや経験の本質を理解するとき、これまでとはまるで違った世界が見えてきます。個人の成長と世界の進化との密接なつながりは、私たちのバイオグラフィーの中に隠されているからです。また未来への種子は、過去の経験の中に潜んでいるのです。

アントロポソフィー（人智学）の人間観と世界観に基づくソーシャルアート、バイオグラフィーワークは、2000年秋、近見富美子によって初めて日本に紹介され、その翌年のクリスマスに、バイオグラフィーワーカー養成コース第1期がスタートしました。養成コースでは、私たちの生の本質的なテーマに沿って、気づきに満ちた学びのプロセスをていねいに辿って行きます。学びの道とともに歩むグループの存在に支えられ、バイオグラフィーワーカーとして必要な、資質や知識を習得してゆきます。人智学の深遠な知識の実践といえるバイオグラフィーワークの学びと経験が、人と人との新しい関係に根ざす、意識のコミュニティを創造してゆく力となることを願っています。

バイオグラフィーワークは、アントロポソフィー（5ページ参照）のインターナショナルセンター、ゲーテアヌム（スイス）の School of Spiritual Science, General Section に属しています。本コースは同機関により認定されています。



教育プログラム ディレクター紹介

近見富美子（ちかみふみこ）

1949年福岡県に誕生。大学で文化地理学を専攻したのち渡欧、20代7年間を英国と南仏で過ごす。帰国後、東京で英語講師を経て、家族と九州の山中に移り、有機農業に従事する。40代に再渡英。

十代の日本の若者の教育に携わる中で1995年に、サセックス州の田園に設立された「社会発展のためのセンター」で、アントロポソフィーに基づくカウンセリングとバイオグラフィーワークを学ぶ機会に恵まれる。個人と社会の健全な成長と発展を願い、2001年に日本でバイオグラフィーワーカー養成コースを開始、今日までワーカーの養成に努めている。一方、英国、フランス、台湾、インド各地でのセミナーやワークショップの経験を通して、バイオグラフィーワークの学びの普遍性と意義とともに、深まる時代の闇を確認、協働の重要性を学ぶ世界の養成コースリーダーの研鑽と交流の組織、インターナショナル・トレイナーズ・フォーラム創立メンバー、ならび一般社団法人バイオグラフィーワーク・ジャパン代表。

コースの概要

本コースは7モジュールのファウンデーション（基礎）コースと、8モジュールからなるアドヴァンス（上級）コースから構成されています（次ページ表、参照）。コース修了者には(社)バイオグラフィーワーク・ジャパンより修了証書が授与されます。

各モジュールは、受講生がホーリスティックで体験的な、大人の学びのプロセスを辿ることができるよう、講義、アート&メモリーワークの個人作業、そしてグループワークを、バランスよく組み合わせたプログラム構成になっています。さらにゲーテの観察術をはじめ、自分自身、および他者のバイオグラフィーを理解するために必要な知識や資質、ならびにグループワークのアプローチを、時間をかけて習得してゆきます。

コース・フォーマットおよびコース日程

ファウンデーションコースは下記 A,B いずれかのコース編成を選ぶことができます。アドヴァンスコースは、集中プログラムのみで開催しています。

A 集中プログラム

年3回(春・夏・冬) 1モジュールを4日間の合宿で履修。

また各モジュールのあいだに地域ごとの1日グループ研修があります。

B 週末プログラム

年9回(開催月、1週末2日間)、1モジュールを3か月で履修。

※2018年の場合 第1ターム(1・2・3月)、第2ターム(5・6・7月)、第3ターム(9・10・11月)

コース開催地

これまで東京、名古屋、京都、福岡で開催されています。詳細はバイオグラフィーワーク・ジャパンのウェブサイトをご参照ください。なおコースに関するお問い合わせはバイオグラフィーワーク・ジャパン事務局までお寄せください。

コース受講に必要な資質

- * 自分と他者のバイオグラフィーに学ぶ姿勢。
- * 社会、教育あるいは医療の諸分野の活動に従事、あるいは関心があるかた。
- * 28歳以上(28歳以下の方はご相談ください)
- * 集中プログラムには、ある程度の体力と集中力が求められます。



コーステーマおよび受講費

■ファウンデーションコース

バイオグラフィーワークの基本的な知識やアプローチを学びます。前期のみの受講も可能です。

前期	バイオグラフィーの概要 3 モジュール 7年周期のアーキタイプはじめ、人間の成長の諸法則、ミラーリング、グループワークの方法などバイオグラフィーワークのアプローチを体験的に学んでゆきます。	受講費 19万5千円
後期	バイオグラフィーとプラネット 4 モジュール 私達の魂に大きく働きかけるプラネットの性質と力を、私たち自身ならび著名な人たちのバイオグラフィーに学び、人間のスピリチュアルな側面への理解を深めます。各自、関心のある人のバイオグラフィーを研究、その発表とレポート提出をもってファウンデーションコース修了となります。	26万円

■アドヴァンスコース

ファウンデーションコースの学びをさらに深め、バイオグラフィーワークをリードしてゆくのに必要な知識の習得とグループワークの経験を積みます。

前期	ダイアログ(対話) 4 モジュール 私たちのバイオグラフィーを形成する様々な対話。その経験の背後にある貴重なメッセージを学び、私たちを取り巻く様々な世界との関係性への理解を深めてゆきます。	26万円
後期	12 重性および統合 4 モジュール 地上での生を支える12の感覚、自我に力を与える12星座を通して感覚を超えた世界への理解を深め、マニの道で5年間の学びを終了します。後期からワークの実習に従事するほか、卒業プロジェクト発表とレポート提出が養成コース修了の条件となります。	26万円

※コース受講費のほか、別途、宿泊費と会場費がかかります。

講師グループ&アドヴァイサー

近見富美子をはじめとする教育、福祉から医療まで、多彩な背景と経験をもつ教育プログラムの認定講師チームが養成コースをリードします。さらに国内外の多くのアントロポソフィーに基づく医療や社会・教育分野に従事する方々との交流や研鑽がコースを豊かなものになっています。

バイオグラフィーワークの世界・コミュニティ

世界各国で活動しているバイオグラフィーワーカーが集う世界会議は、2年に1度、ヨーロッパで開催されています。また国際養成コースリーダー会議が毎年スイス、ドルナツハを中心に開かれ、養成コースリーダー間での経験の共有と養成コースの質の維持に努めています。

養成コース終了後のステップ

■バイオグラフィーワーカーズ・ジュピター

養成コース修了者は、それぞれの場で、バイオグラフィーワークを実践してゆくことができます。またバイオグラフィーワークの充実と交流を目的として、2008年に創立されたバイオグラフィーワーカーズのコミュニティ、ジュピターのメンバーとして、さらなる研鑽と交流を継続してゆくことができます。

■ディプロマ

養成コース全課程を修了後、所定の条件を満たした人は、バイオグラフィーワーク・ジャパンより発行されるディプロマを取得することができます。

アントロポソフィーとバイオグラフィーワーク

アントロポソフィー（人智学）は、ドイツを中心に活動したオーストリア出身のルドルフ・シュタイナー（1861-1925）によって創出された人間存在の本質をつく学びの体系です。彼は、霊的科学 Spiritual Science の観点から、人間のカルマや霊性に関して、20世紀の初頭以降、ヨーロッパの多くの地で講演を続け、新しい社会意識とその実践に貢献しました。講演録や著作に残されたシュタイナーのことばの数々は、当時の聴衆だけでなく、現在の私たちの魂の深みに語りかけてきます。人間は地上の住民であると同時に霊的な存在であること、そして大宇宙を反映する小宇宙としての人間の本質に目覚める時代が来たことを。

普遍的人間性（ユニヴァーサル・ヒューマニティ）というコンセプトが、はじめて歴史に登場した15世紀前半を、シュタイナーは「意識の時代の夜明け」とよびました。それ以来、今日までの人類の歩みは、個人化への歩みとあってよいでしょう。個人がその関心や洞察を意識して、探求できる時代の始まりでした。

そして個人が自らの個人的本性を見出して行く道筋で、避けて通れないのが人の内奥に潜む根源的な問いです。「私はどこからきたのか？ この人生で何をして、そしてどこへ向かうのか？」意識の時代に生きる誰もが一度は抱くこの問い。ほかの誰でもない、自分の道を模索するこの魂の問いに、個人の、自分自身のバイオグラフィーへの意識の目覚めを見ることができます。

シュタイナーによって紹介された個人のバイオグラフィーへの新しい視点は、第2次世界大戦の悲劇を経て、その弟子たちによって体系づけられました。シュタイナーに学んだ人たちが、人間の成長のアーキタイプをはじめ、太古の叡智「神秘」を、体験的な大人の学びのプロセス、バイオグラフィーワークとして創出したのです。世界各地でいまだに続く戦争や紛争が示す破壊の道ではなく、ホーリスティックで 創造的な未来への道の探求への意志と願いを込めて。

シュタイナーが伝えた個人の生の意義をバイオグラフィーワークの学びの中で実感する時、心に満ちてくる想いがあります。どんなに孤独に感じるときでも、人はたくさんの人々や霊的存在に支えられていること、そして人は、人間社会だけでなく、宇宙全体に責任がある存在であるという想いです。私たちは、目に見えない多くのつながりに気づいているのでしょうか？ 責任を果たしているのでしょうか？

一般社団法人バイオグラフィーワーク・ジャパン

(社)バイオグラフィーワーク・ジャパンは、バイオグラフィーワークの充実と教育プログラムの健全な発展を目的に2012年12月に創設されました。教育プログラムでは、バイオグラフィーワーカー養成コースに加えて、人智学に基づいた心理カウンセリングをはじめ、人間の成長や現代社会の諸課題の理解につながるプログラムを開催しています。ウェブサイトをご覧ください。

代表 近見富美子（理事、教育プログラムディレクター）

Email: fumikochikami@hotmail.com

Lansdowne, Forest Row, RH18 5 HP, UK

日本事務局

中村かをる（理事）愛知県日進市岩崎町石兼56番地72 Tel/Fax: 0561-72-9612

教育プログラムの問い合わせは、info@biographywork.jp

バイオグラフィーワーク・ジャパン <http://biographywork.jp>

研修所 (社)バイオグラフィーワーク・ジャパン「対話の家」

静岡県伊東市大室高原 4-852

一般団法人、会社法人等番号1800-05-014982